

『外国人に関する直接的指導のタイプ』

明治小学校 第6学年 音楽科学習指導案

1 単元名 「世界の音楽に親しもう」

2 単元の目標

- (1) 世界の国々の音楽を聴き、それぞれの国の楽器や音楽のよさを味わったり、それを生かして表現したりする学習に意欲的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 旋律の特徴や歌詞から曲想を感じ取って演奏の仕方を工夫したり、つくったリズムの組み合わせ方や強弱について見通しをもって工夫している。 (音楽表現の創意工夫)
- (3) 曲想を感じ取って、旋律の表現の仕方やリズム伴奏を工夫して演奏したり、見通しをもってつくったリズムを音楽に構成したりしている。 (音楽表現の技能)
- (4) 世界の国々の音楽の違いを感じ取り、友達にそのよさを紹介するなどして、それぞれの音楽のよさを味わって聴いている。 (鑑賞の能力)

3 人権教育との関連

「世界の音楽」の学習で、諸外国の音楽の特徴を感じ取ったり、そのよさを味わったりすることで、それぞれの音楽に親しんでいくことができるようになると考えられる。さらに、自国の芸術や文化に誇りをもてるようになるだけでなく、他国の芸術や文化を尊重する態度を養うことにもつながる。このことは、本校の人権教育で育てたい能力・態度（高学年）感受性に関わるものと考えられる。

4 本時の指導

- (1) 題目 世界のいろいろな楽器や音楽に親しもう
- (2) ねらい それぞれの国の音楽のよさを味わって聴く（鑑賞の能力）
- (3) 人権教育の視点

それぞれの国の伝統的な音楽や楽器を聴き、私たちの身近な音楽との違いを感じ取ったり、それぞれのよさに気付くようにすることで、他国の音楽文化を尊重する態度を養い、我が国の音楽文化を大切にしようとする気持ちを育てる機会としたい。

(4) 展開

※人権教育の配慮 ○努力を要する児童への支援

具体目標	学習活動	学習活動への支援・評価	準備
- 活動への意欲を高めることができる。 - 本時のめあてがわかる。	1 「越天楽今様」を歌う。	曲のもつ雰囲気を感じながら歌い、本時の学習の意欲付けを図る。	
	2 本時のめあてを知る。	本時のめあてを確認できるようにする。	
	それぞれの国の音楽のよさを味わって聴こう。		
楽器の音色や音楽の特徴を感じ取って聴	3 それぞれの国の音楽から感じ取った音楽の雰囲気や楽器の音色、気付いた	※諸外国に伝わる楽器に興味をもったり、我が国に伝わる楽器と比較したりして、意欲的に聴くように支援する。	ワークシート

くことができる。	特徴などをワークシートに記入する。	○音楽の雰囲気や特徴を書けない時には、ヒントカードを参考にしながら記入させるようにする。	
・それぞれの国の音楽のよさを感じ取ることができる。	4 ワークシートに記入したことをもとに、それぞれの国の音楽や楽器の特徴、よさを発表する。	※どんな意見も肯定的に受け止め、その国の音楽のよさを見つけられるようにする。	ヒントカード
【評価と支援】 それぞれの国の音楽の良さを味わって聴くことができたか、学習活動4の発表の様子やワークシートから評価する。(鑑賞の能力) 〈十分満足できる状況〉 ・各国のもつ音楽の雰囲気や、楽器の特徴・響きなどについて感じ取って聴き、その特徴を世界地図と照らし合わせて見つけている。 〈おおむね満足できる状況〉 ・各国のもつ音楽の雰囲気や、楽器の特徴・響きなどについて感じ取って聴き、その特徴やよさを進んで見つけている。 〈努力を要する児童への支援〉 ・それぞれの音楽から聴き取った楽器の響きや音楽の雰囲気、特徴、感想などをヒントカードを参考にしながら記入させるようにする。			
・本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知ることができる。	5 本時の活動を振り返り、学習のまとめをする。	・次時からボリビア民謡「アンデスの祭り」を学習していくことを伝える。	

(5) 授業についての考察

- ・本時を展開する前の授業では、雅楽「越天楽」を鑑賞したり階名唱や歌詞唱をし、本時の最後にも鑑賞した。そのことにより、我が国の音楽や楽器のよさを再確認することができた。
- ・世界の音楽を聴く準備として、鑑賞する国を世界白地図に場所を記入させてみた。その結果「日本に近い国は、比較的テンポはゆったりで、遠い国だと陽気な雰囲気ではテンポがアップしていることが多かった。」と感想を述べている児童がいたり、伝統楽器を中心に考えた児童は「アジアは弦楽器が多く、アフリカはドラムが多く、ヨーロッパは鍵盤楽器(音階のある楽器)が多い傾向にある。」という意見を書いていたことから、ただ音楽を聴かせるだけでは得られない感想をもたせることができた。
- ・感想の発表を1曲ごとに行ったことは、発表への意欲を高め、感想を深めることにもつながった。
- ・教科書に載っていない楽器は参考資料を提示したが、実物投影機などの教育機器を上手に取り入れた授業の展開も可能であったと思う。また、今後はDVDなどの視聴覚教材を揃えていく必要を感じた。
- ・世界の音楽は、その国ならではの楽器を使い、その国の文化や特徴が音楽として表現されているという感想が多かった。また、A児が雅楽「越天楽」を再度鑑賞した感想には「日本の音楽の良さは、ゆったりとしたテンポとずっと聴いていても飽きない」という意見が書き込まれていた。

世界の音楽を聴いてみよう

6年 組氏名

国 名	楽 器 の 音 色 など	音 楽 の 特 徴 や 雰 囲 気 など
①ハンガリー	ツィンバロム	ジプシーの踊り
②ガーナ	トーキングドラム	「オバタラ」から
③インド	バンスリー	「ラーガフーパーリー」から「ジャラ」
④朝鮮半島	カヤグム	チンヤンジョ
⑤ラオス・タイ	ケーン	「大楽章」から
⑥ペルー・ボリビア	ケーナ	コンドルは飛んで行く
⑦ロシア	バラライカ	月は光りぬ
⑧タンザニア	サンザ	チュオダ

⑨インド	シタールとタフルー	ガット II
⑩モンゴル	モリンホール	三頭の駿馬
⑪中国	アルフー	二泉映月
⑫ミャンマー	サウンガウ	ウエイザヤンダー
⑬アメリカ	バンジョー	バンジョーボーイチャイムス
⑭ボリビア	チャランゴ	蜂鳥の飛行
⑮日本	印象に残った雅楽の楽器 [] 理由・・・なぜなら、	越天楽
○世界地図と音楽を照らし合わせて感じたことは、 ----- ○日本の音楽の良さは、 -----		

